

第1回
新しい工業高校の整備候補地選定委員会

配布資料

< 目 次 >

1 洛陽工業高校・伏見工業高校の概要

資料1	洛陽工業高校・伏見工業高校 設置学科及び生徒募集定員（平成25年度入学者選抜）	P1
資料2	洛陽工業高校・伏見工業高校 在籍生徒数（平成25年度）	P2
資料3	洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況	P3
資料4	京都市立中学校3年生徒数及び洛陽工業・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【全日制】	P5
資料5	京都市立中学校3年生徒数及び洛陽工業・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【定時制】	P6

2 「新しい工業高校」整備候補地の施設状況等

資料6	「新しい工業高校」整備候補地の現状について	P7
資料7	整備候補地の校舎配置および各階平面図	P11
資料8	建物保有状況【市立工業高校・市立高校比較】	P19
資料9	洛陽工業高校における建物保有状況【現況平面図】	P20
資料10	伏見工業高校における建物保有状況【現況平面図】	P21
資料11	洛陽工業高校・伏見工業高校 建物の耐震補強状況	P22

資料 1

洛陽工業高校・伏見工業高校 設置学科及び生徒募集定員（平成 25 年度入学者選抜）

	全日制	定時制（昼間）	定時制（夜間・単位制）	計
洛陽工業	創造技術科 150		電気科・機械科・コンピュータ科 ※平成22年度末に閉制	150 名
伏見工業	システム工学科 170	システム工学科 （キャリア実践コース） 20	工業技術科 30	220 名
計	320 名	20 名	30 名	370 名

両校とも、1 年時は共通履修、2 年時からコース選択。コースは、以下の通り。

洛陽工業高校 創造技術科 → 電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコース

伏見工業高校 システム工学科 → 住環境システムコース・都市情報システムコース・
生産技術システムコース・テクノシステムコース・工学探究コース

資料2

洛陽工業高校・伏見工業高校 在籍生徒数(平成25年度)

※ 平成25年4月時点 各校報告数

※ 入学者数と1年生徒数が異なるのは、原級留置生徒や入学後調査までに中退した生徒がいるため。

【洛陽工業】

全日制

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	うち女子
創造技術	150	150	155	184	159	498	22

コース	2年	3年	計	(うち女子)
電気	59	40	99	7
電子	66	62	128	3
機械	35	30	65	3
京都ものづくり	24	27	51	0
計	184	159	343	13

【伏見工業】

全日制

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	うち女子
システム工学	170	170	185	150	147	482	64

コース	2年	3年	計	(うち女子)
住環境システム	31	31	62	10
都市情報システム	35	37	72	10
生産技術システム	26	20	46	4
テクノシステム	37	35	72	13
工学探究	21	24	45	4
計	150	147	297	41

定時制(昼間)

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	(うち女子)
システム工学 (キャリア実践コース)	20	20	21	17	12	50	4

定時制(夜間)

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	4年	計	(うち女子)
工業技術	30	30	39	17	21	25	102	9

洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況(平成以降)

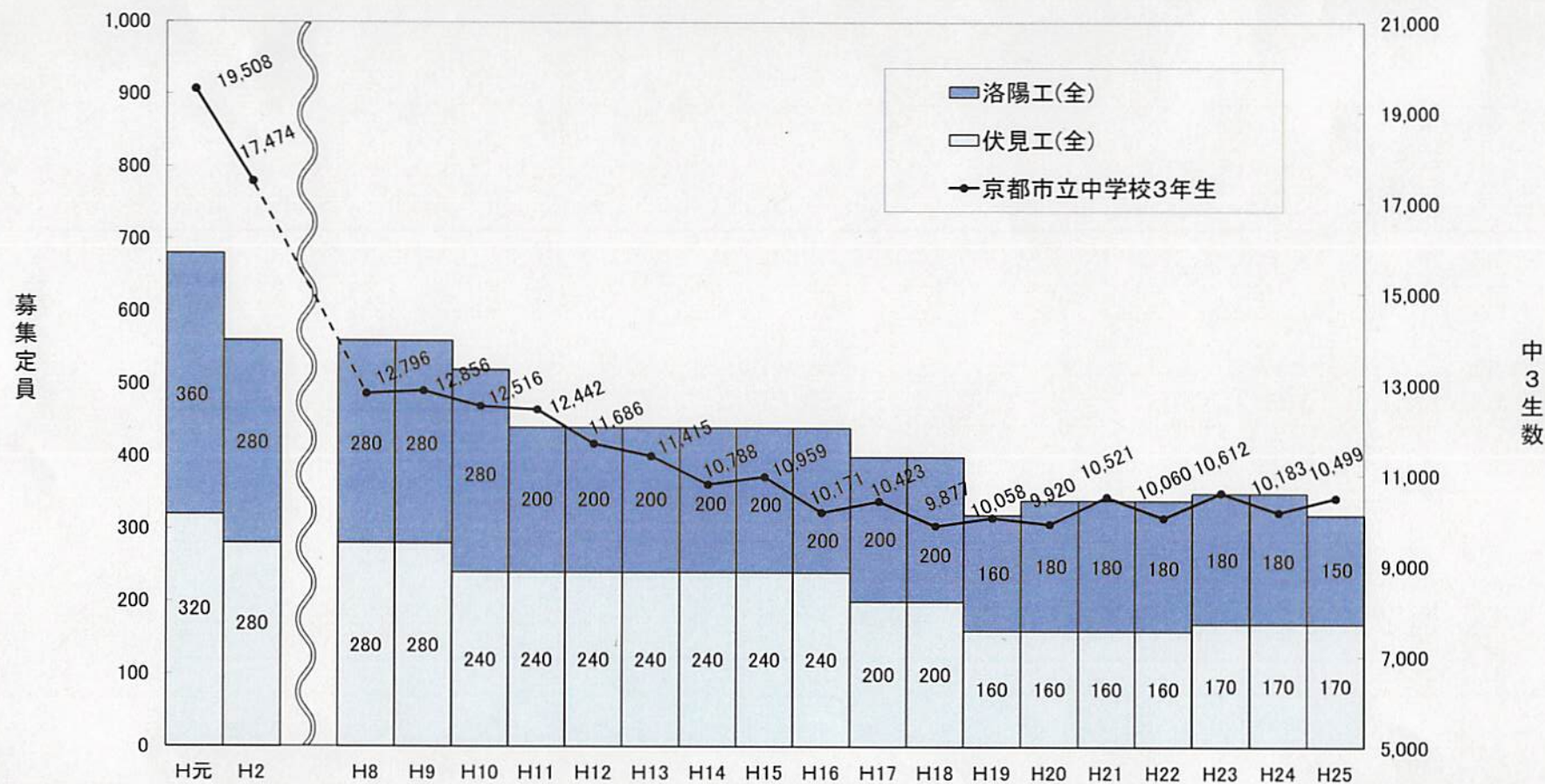
選抜年度	概 要	内 容
平成2年度	洛陽工業(全)「情報電子科」 伏見工業(全)「産業デザイン科」 等の設置	〔洛陽工業(全)〕 6 学科 9 学級(機械 2・電子 2・電気 2・化学工業 1・色染化学 1・染織技術 1)を 5 学科 7 学級(電子機械 2・情報電子 2・電気 1・化学工業 1・染織技術 1)に改編。 〔伏見工業(全)〕 7 学科 8 学級(金属工芸 1・精密機械 1・建築 2・土木 1・インテリア 1・工業デザイン 1・窯業 1)を 5 学科 7 学級(機械 2・建築 2・建設工学 1・産業デザイン 1・セラミック 1)に改編。
平成 10 年度	伏見工業(全)「総合技術科」 同校(定)「都市建設科」 洛陽工業(定)「コンピュータ科」 等の設置	〔伏見工業(全)〕 「セラミック科」を廃止、「機械科」を1学級減し、「総合技術科」を新設し、 5 学科 6 学級(機械 1・建築 2・建設工学 1・産業デザイン 1・総合技術 1)に改編。 〔伏見工業(定)〕 「土木科」「建築科」を統合して「都市建設科」を置き、 2 学科 4 学級(機械 2・都市建設 2)に改編。 〔洛陽工業(定)〕 「工業化学科」を廃止、「電気科」を1学級減する一方で、「コンピュータ科」を新設し、 3 学科 4 学級(機械 2・電気 1・コンピュータ 1)に改編。
平成 11 年度	洛陽(全)を3学科群7学科に 全面改編	5 学科 7 学級(電子機械 2・情報電子 2・電気 1・化学工業 1・染織技術 1)を 3 学科群 7 学科(京都伝統産業科 1・環境科学科 1・電気科 1・電子通信科 1・電子情報科 1・生産技術科 1・電子機械科 1)に改編。

洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況

選抜年度	概 要	内 容
平成19年度	洛陽工業(全)を1学科4コースに 伏見工業(全)を1学科5コースに 全面改編 洛陽工業(定)の募集を停止 伏見工業(定)を 昼間1学科1コースと 夜間単位制1学科に改編	〔洛陽工業(全)〕 3学科群7学科(京都伝統産業科1・環境科学科1・電気科1・電子通信科1・電子情報科1・生産技術科1・電子機械科1)を 1学科4コース(創造技術科＝電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコース)に改編。 一括募集。 〔伏見工業(全)(昼間定)〕 5学科6学級(機械1・建築2・建設工学1・産業デザイン1・総合技術1)を 1学科5コース(システム工学科＝住環境システムコース・都市情報システムコース・生産技術システムコース・テクノシステムコース・工学探究コース)に改編・キャリア実践コースを新設。 一括募集。 〔洛陽工業(定)〕 募集停止。 〔伏見工業(定)〕 定時制夜間部(4年)1学科(工業技術科)を単位制に改編。
平成22年度	洛陽工業(定)を閉制	〔洛陽工業(定)〕 閉制。

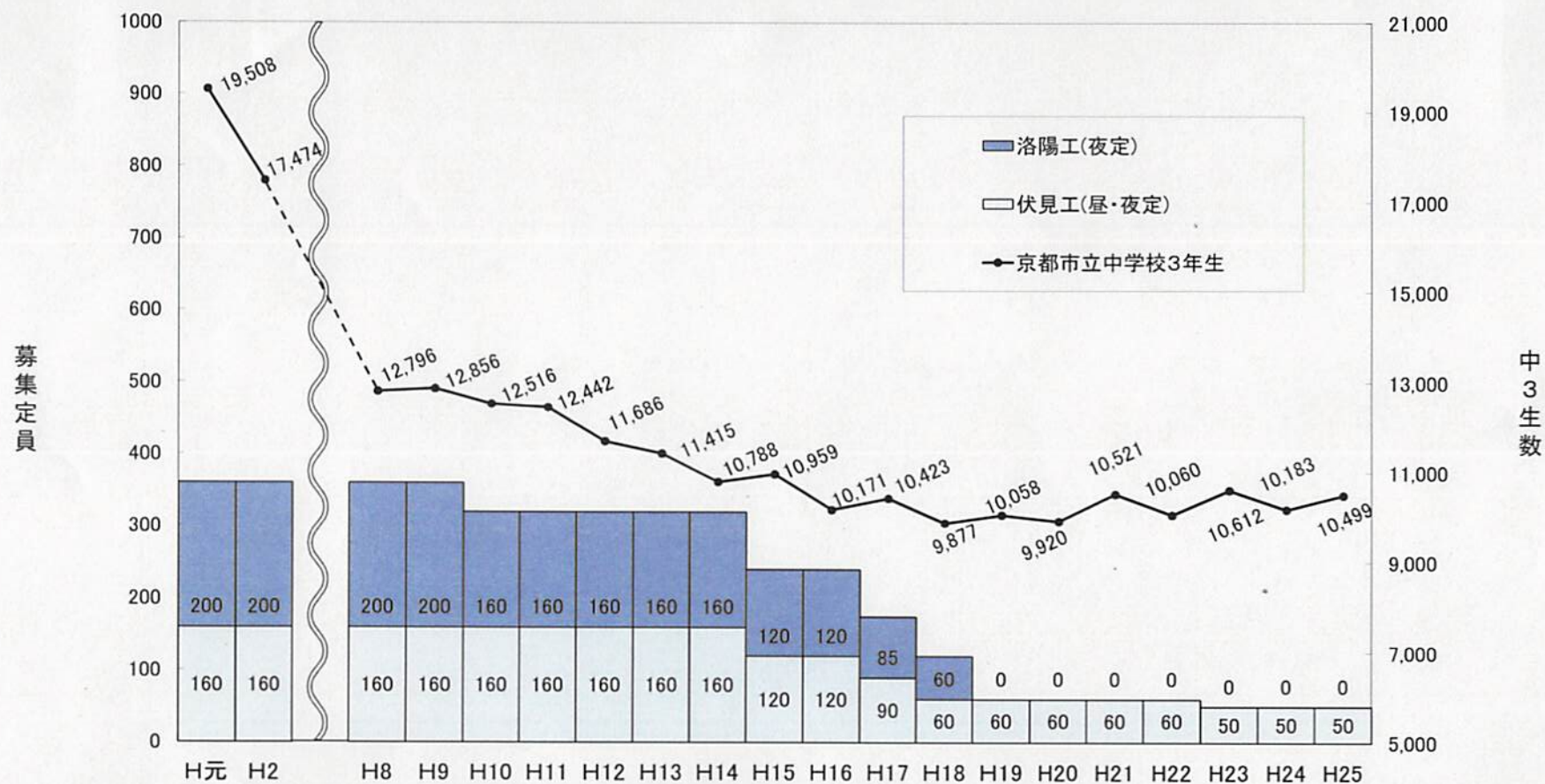
資料4

京都市立中学校3年生生徒数 及び 洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【全日制】



高校入学年度	H元	H2	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
定員比率 (募集定員／中3生数)	2.9%	3.2%	4.4%	4.4%	4.2%	3.5%	3.8%	3.9%	4.1%	4.0%	4.3%	3.8%	4.0%	3.2%	3.4%	3.2%	3.4%	3.3%	3.4%	3.3%

京都市立中学校3年生徒数 及び 洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【定時制】



高校入学年度	H元	H2	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
定員比率 (募集定員／中3生数)	2.9%	3.2%	2.8%	2.8%	2.6%	2.6%	2.7%	2.8%	3.0%	2.2%	2.4%	1.7%	1.2%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%

資料 6

「新しい工業高校」整備候補地の現状について

1 基礎数値等について

学校名	生徒数	学級数	敷地面積	建物面積
洛陽工業	529 名	20 学級	32,763 m ² 〔内、グラウンド〕 11,599 m ² 〕	22,676 m ² 〔内、体育館〕 1,385 m ² 〕
伏見工業	638 名 〔全日制 539 名〕 〔定時制 99 名〕	22 学級 〔全日制 18 学級〕 〔定時制 4 学級〕	42,728 m ² 〔内、グラウンド〕 18,951 m ² 〕	20,795 m ² 〔内、体育館〕 1,339 m ² 〕
【参考】 立命館 中・高	1,701 名 〔中学校 709 名〕 〔高校 992 名〕	51 学級 〔中学校 24 学級〕 〔高校 27 学級〕	70,051 m ² 〔内、グラウンド〕 21,441 m ² 〕	21,612 m ² 〔内、体育館〕 1,849 m ² 〕

※平成 24 年 4 月 1 日時点での数値

2 都市計画の内容について（主要項目のみ抜粋）

学校名	市街化区域	用途地域	風致・景観等	埋蔵文化財	備考
洛陽工業	市街化区域	第 1 種 住居地域	市街地型 美観形成地区	唐橋遺跡 西寺跡	・容積率 200% ・建ぺい率 60%
伏見工業	市街化区域	第 1 種 住居地域	町並み型建造 物修景地区	指定なし	・容積率 200% ・建ぺい率 60%
【参考】 立命館 中・高	市街化 調整区域	指定なし	第 2 種風致地区 （風致地区特 別修景地域）	指定なし	・容積率 100% ・建ぺい率 30%（風致地区に よる規制） ・宅地造成工事規制区域

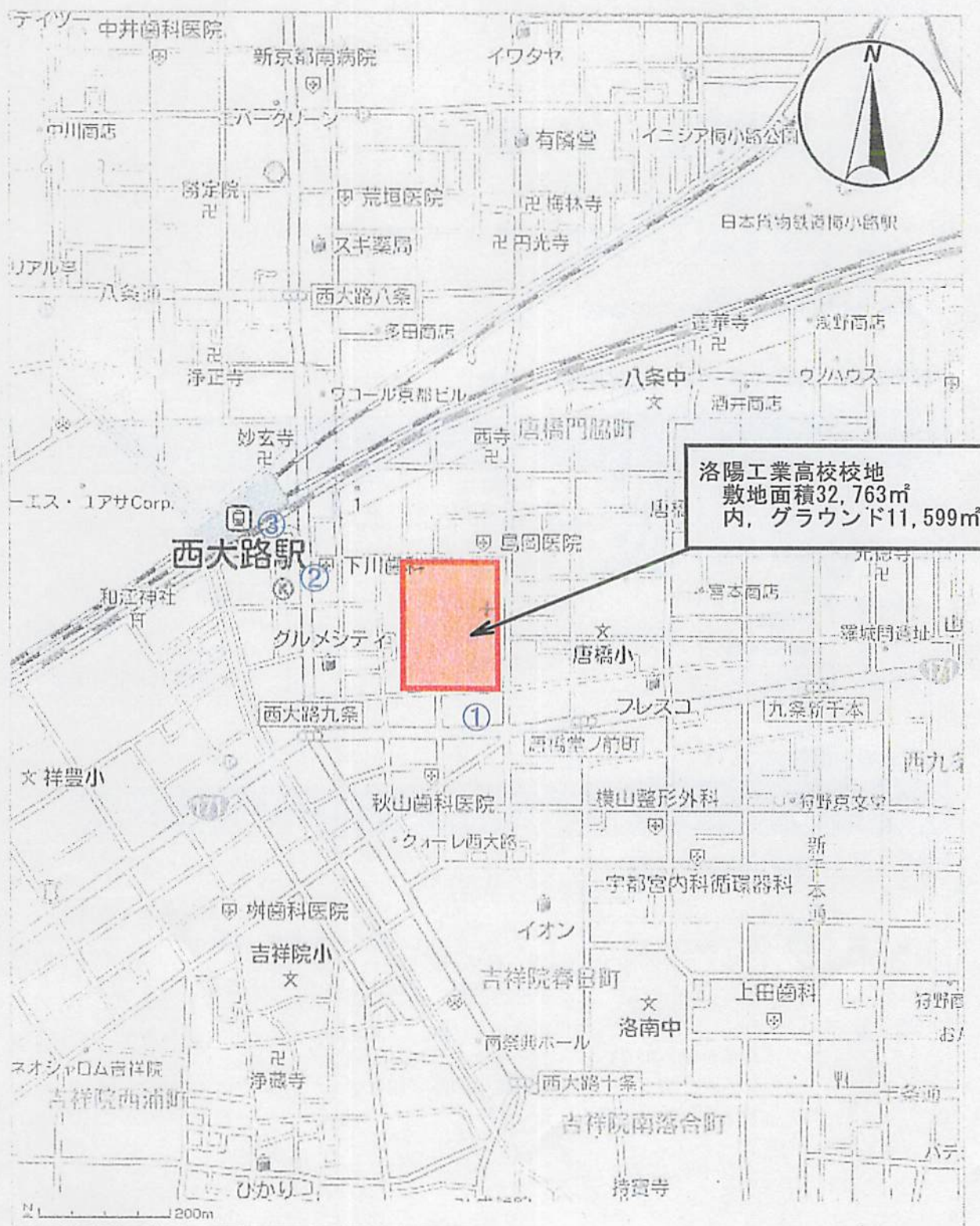
3 交通の利便性について

学校名	所在地	最寄りの駅・停留所及び所要時間
洛陽工業	南区唐橋大宮尻町 22	・市バス「洛陽工業高校前」・「西大路駅前」から徒歩 5 分程度 ・JR「西大路駅」から徒歩 5 分程度
伏見工業	伏見区深草鈴塚町 13	・市バス「勘進橋」・「稲荷大社前」から徒歩 5 分程度 ・市営地下鉄「十条駅」から徒歩 15 分程度 ・JR「稲荷駅」から徒歩 12 分程度 ・京阪電気鉄道「伏見稲荷駅」から徒歩 7 分程度
【参考】 立命館 中・高	伏見区深草西出山町 23	・市バス「坊町」・「僧坊町」から徒歩 7 分程度 ・JR「稲荷駅」から徒歩 20 分程度 ・京阪電気鉄道「深草駅」から徒歩 15 分程度

京都市立洛陽工業高校（京都市南区唐橋大宮尻町22）

■ 最寄りの駅・停留所及び所要時間

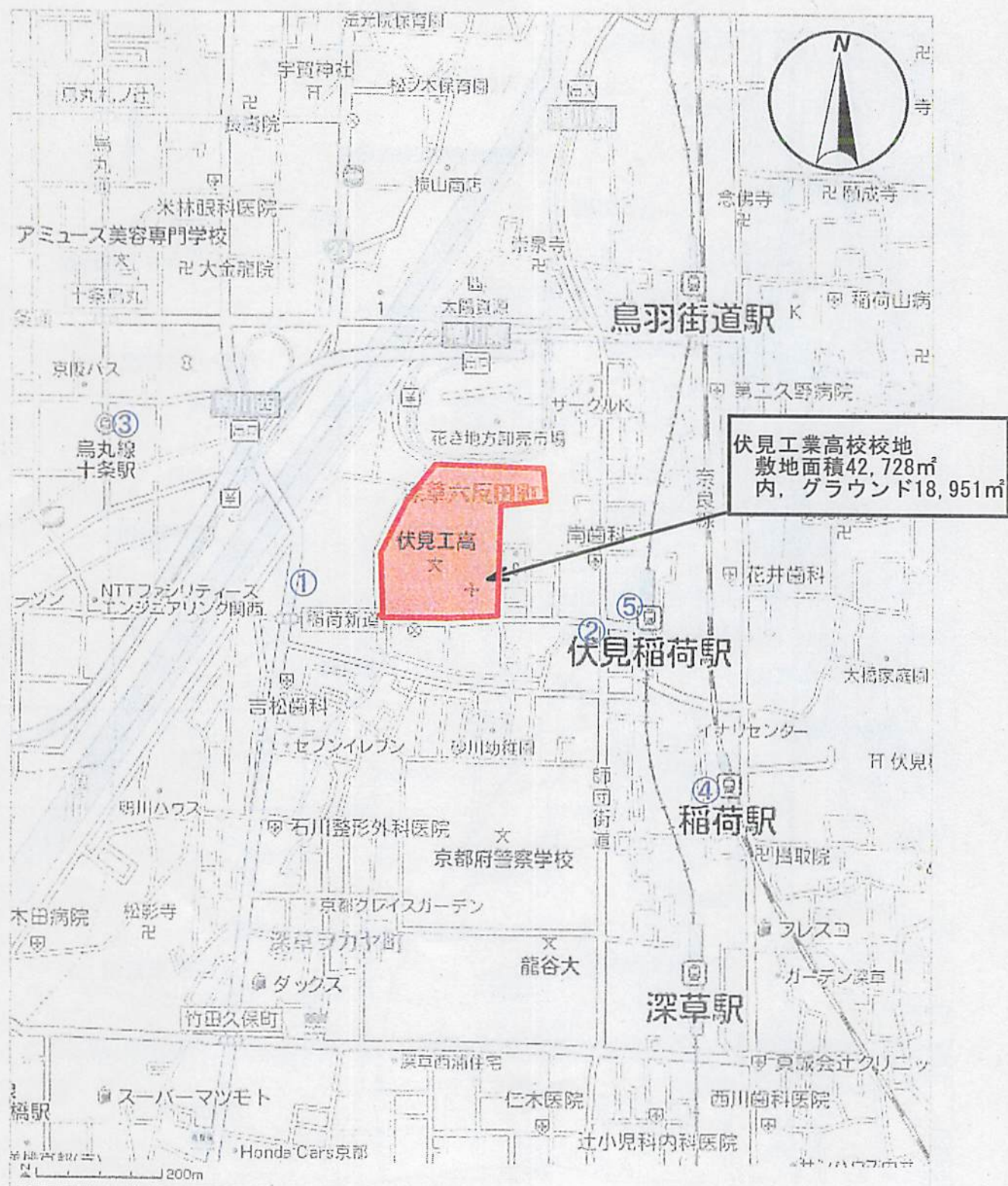
- ①市バス「洛陽工業高校前」：徒歩5分程度
- ②市バス「西大路駅前」：徒歩5分程度
- ③JR「西大路駅」：徒歩5分程度



京都市立伏見工業高校（京都市伏見区深草鈴塚町13）

■ 最寄りの駅・停留所及び所要時間

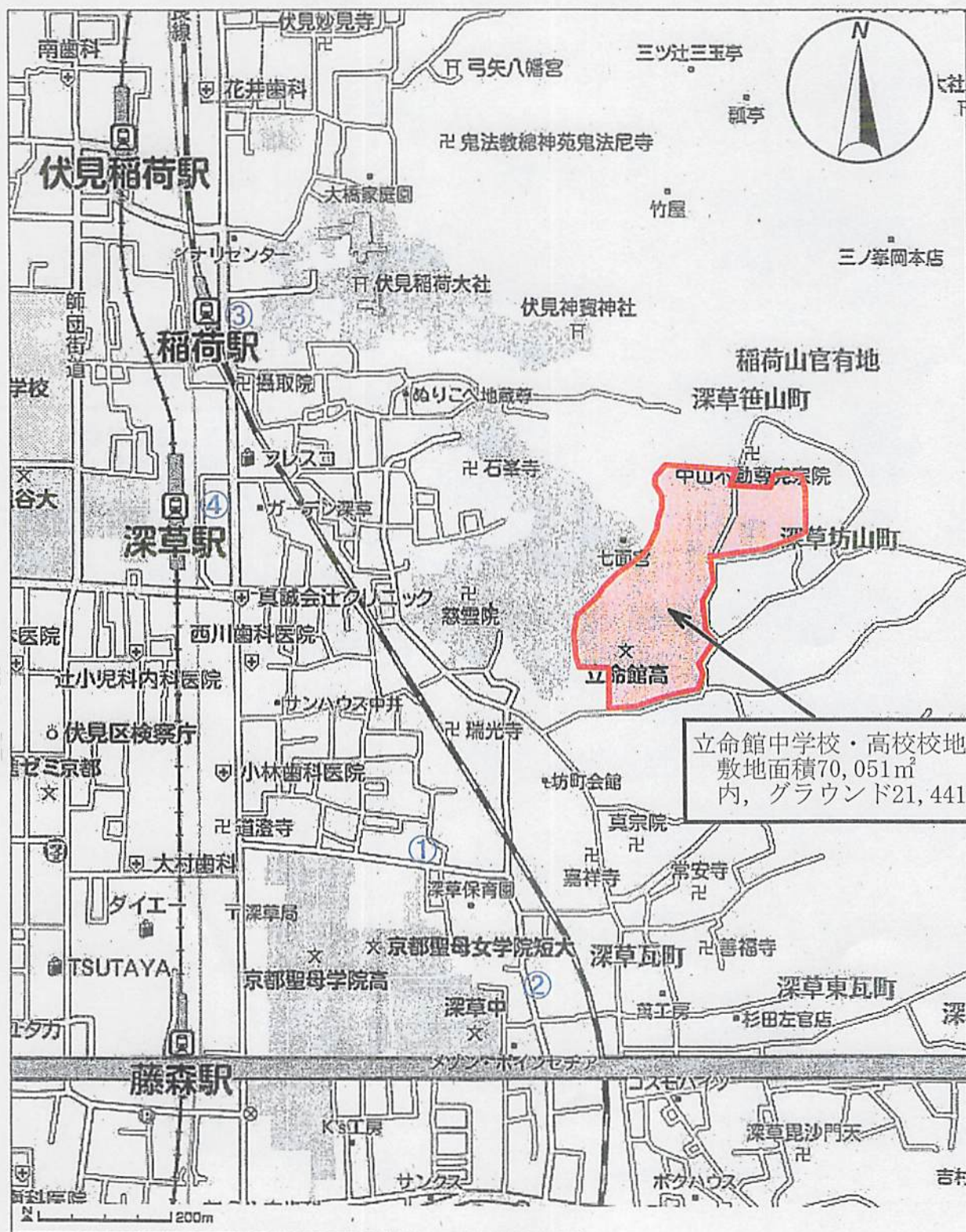
- ①市バス「勧進橋」：徒歩5分程度
- ②市バス「稲荷大社」：徒歩5分程度
- ③市営地下鉄「十条」：徒歩15分程度
- ④JR「稲荷駅」：徒歩12分程度
- ⑤京阪電気鉄道「伏見稲荷駅」：徒歩7分程度



立命館中学校・高等学校（京都市伏見区深草西出山町23）

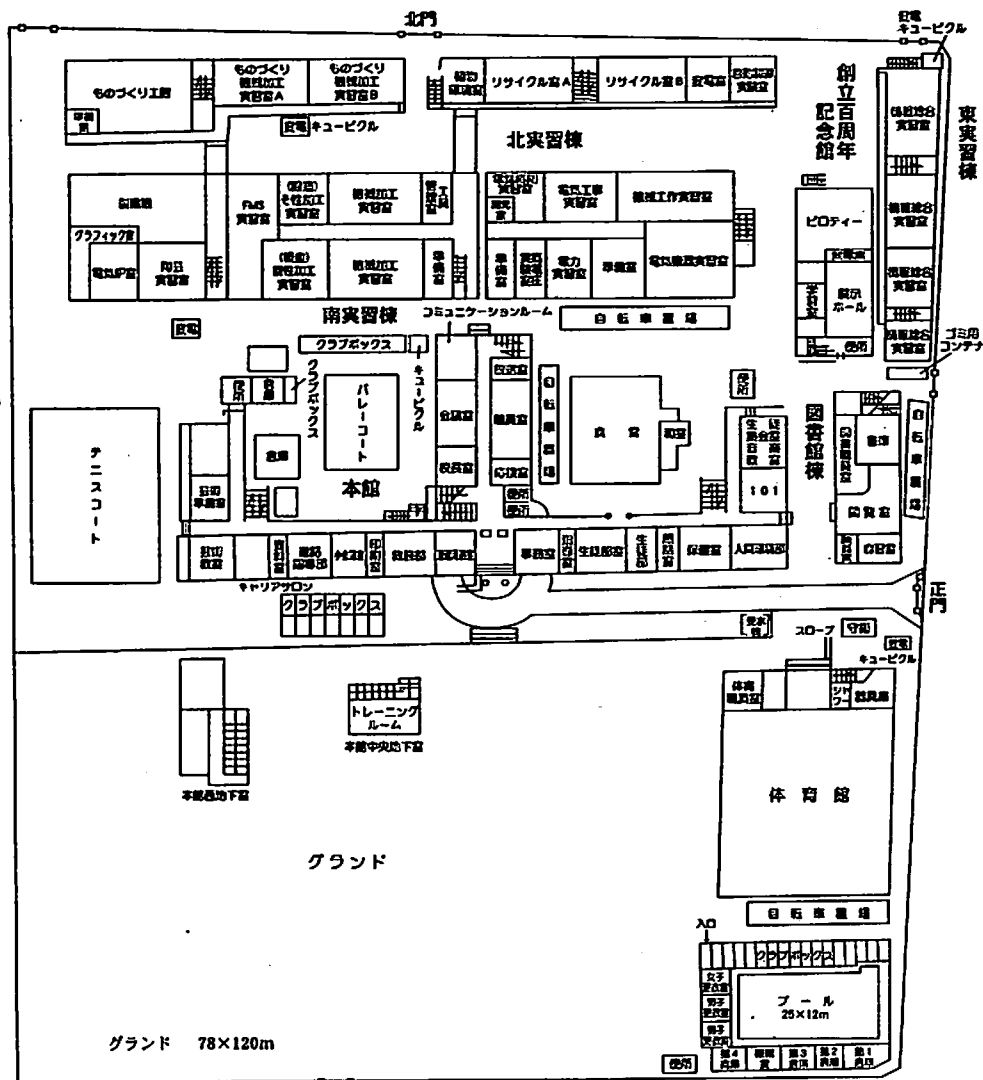
■ 最寄りの駅・停留所及び所要時間

- ①市バス「坊町」：徒歩7分程度
- ②市バス「僧坊町」：徒歩7分程度
- ③JR「稲荷駅」：徒歩20分程度
- ④京阪電気鉄道「深草駅」：徒歩15分程度



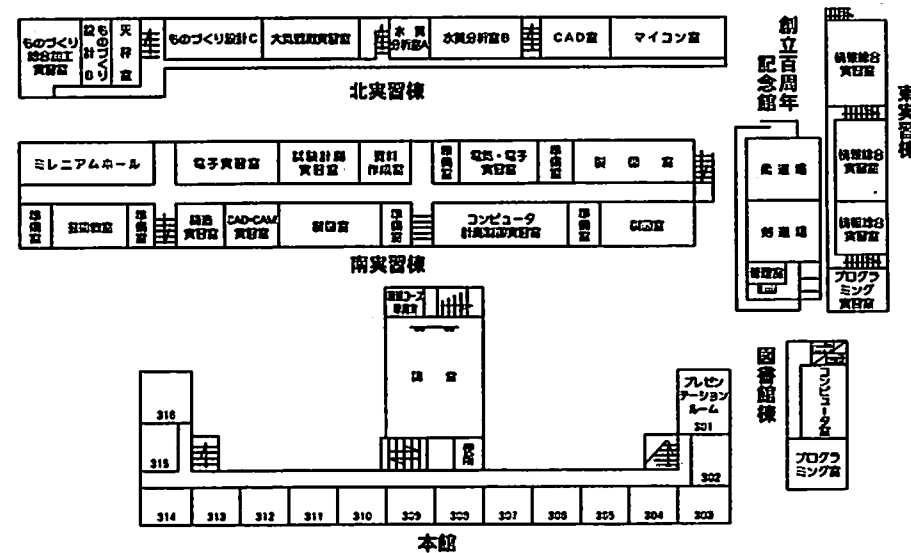
校舎配置および各階平面図

(1階 平面図)

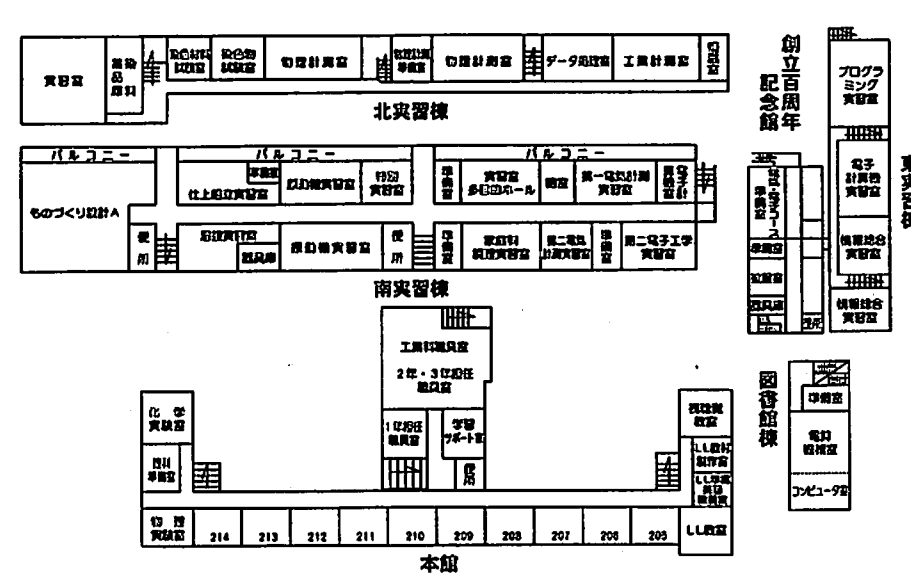


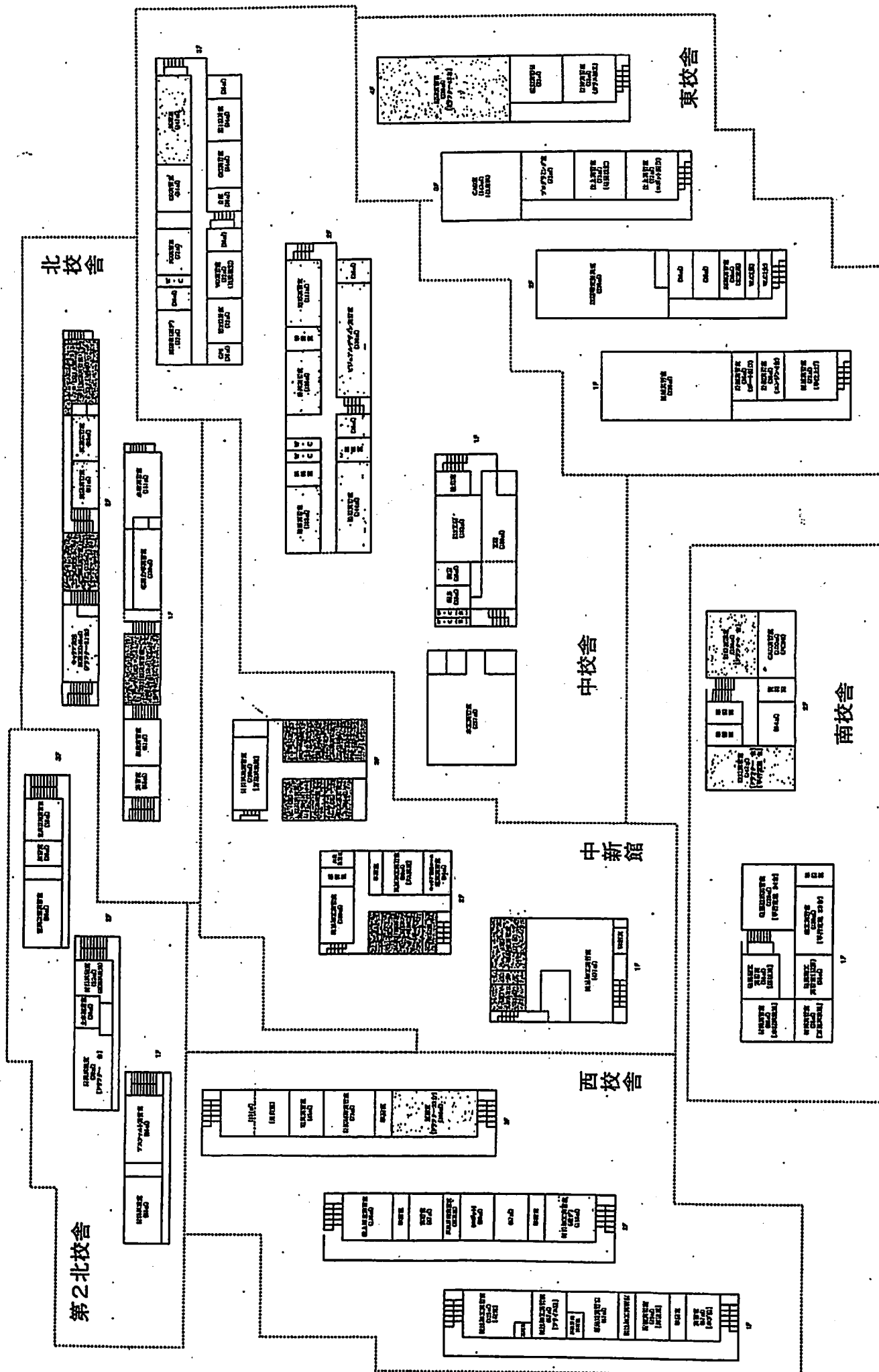
校地面積 32,763 m²

(3階 平面図)



(2階 平面図)

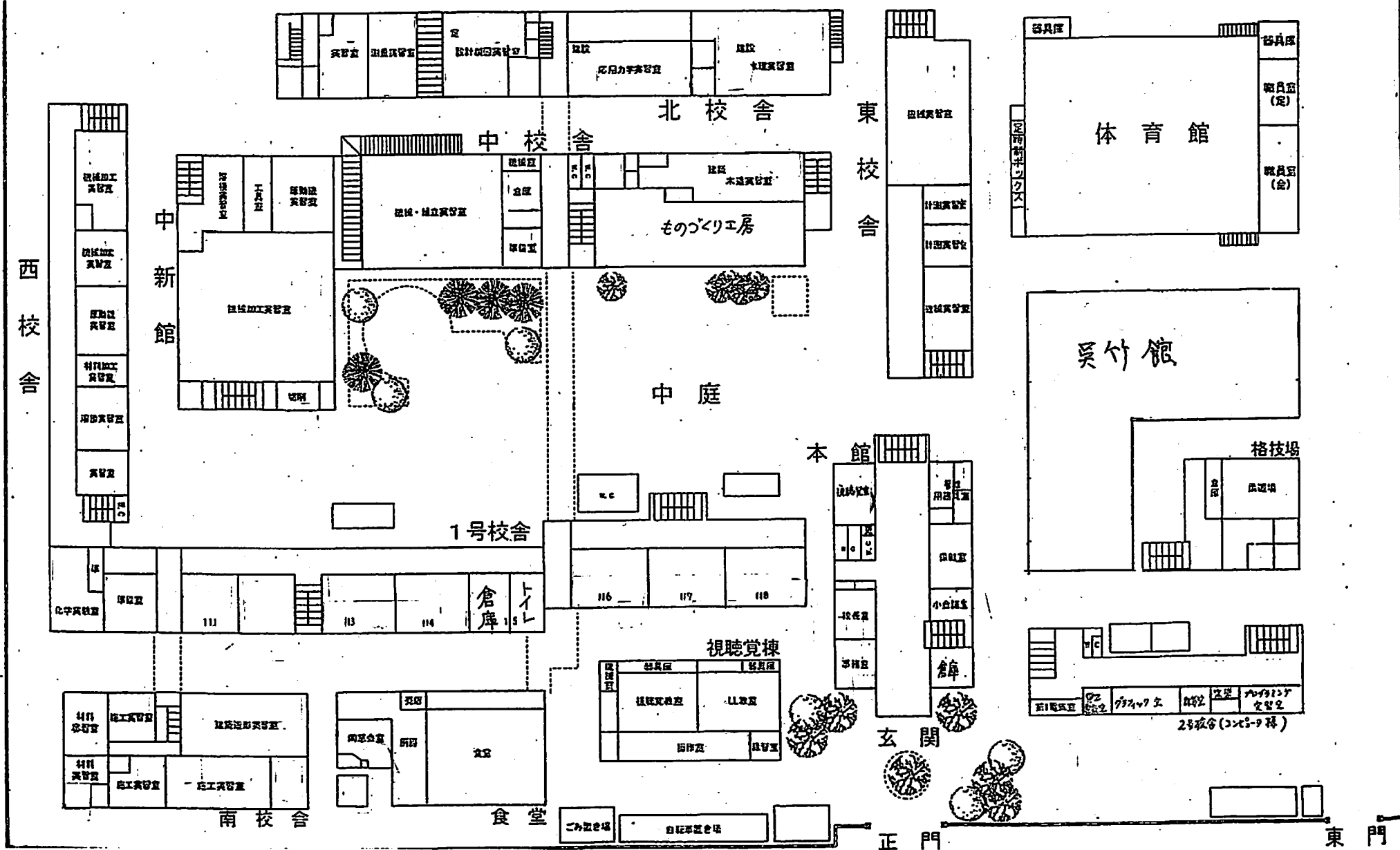




伏見工業高等学校平面図 1F



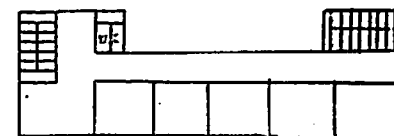
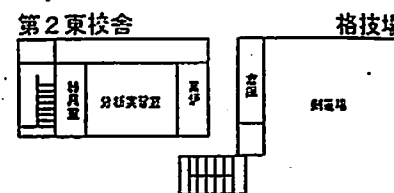
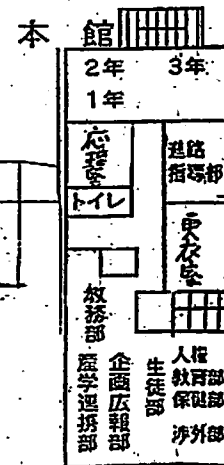
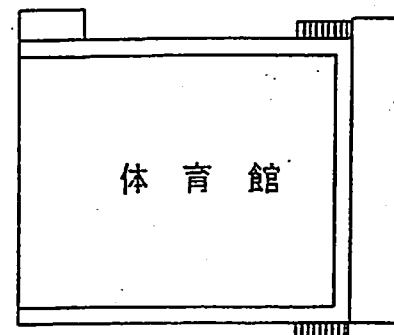
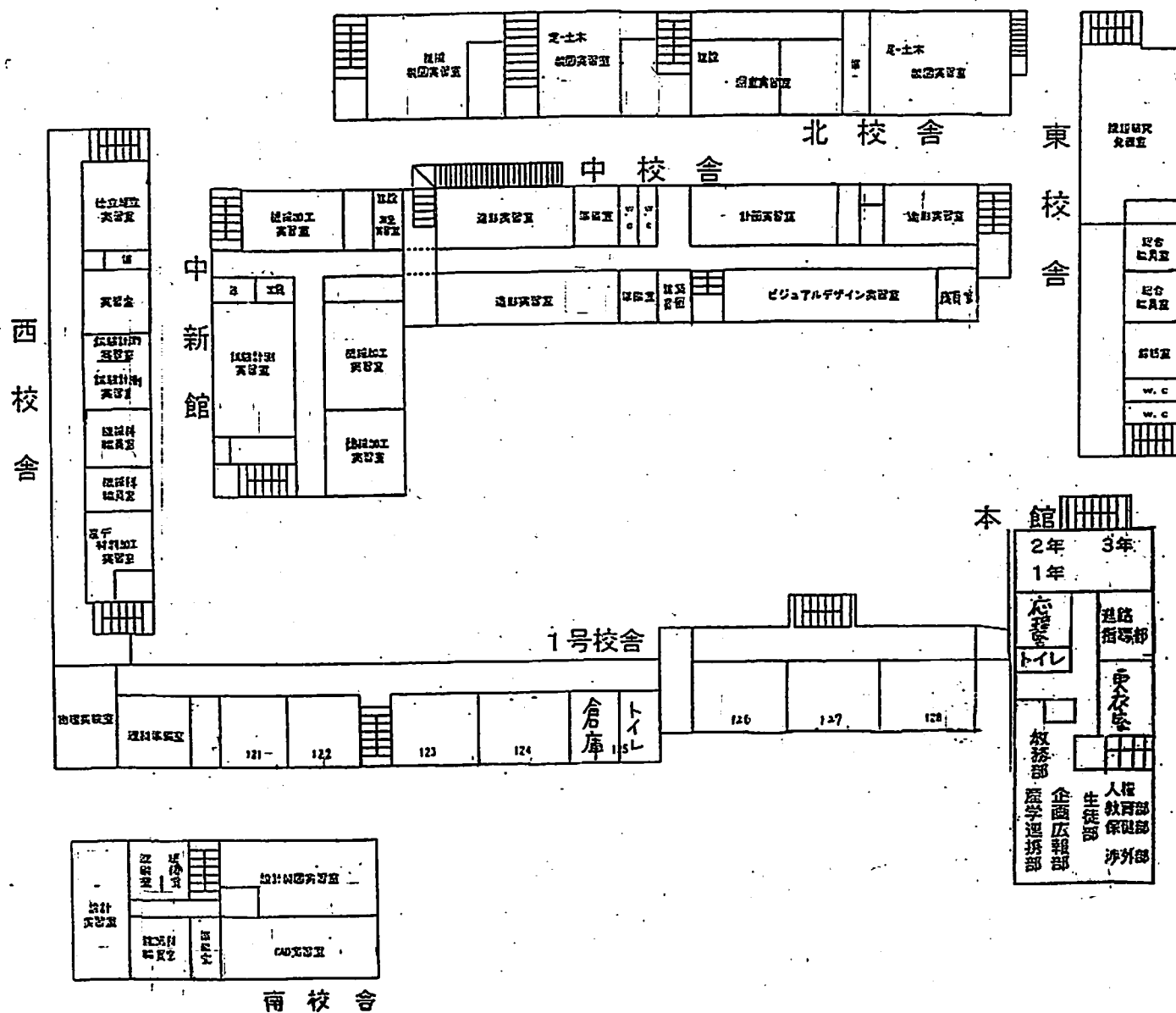
13



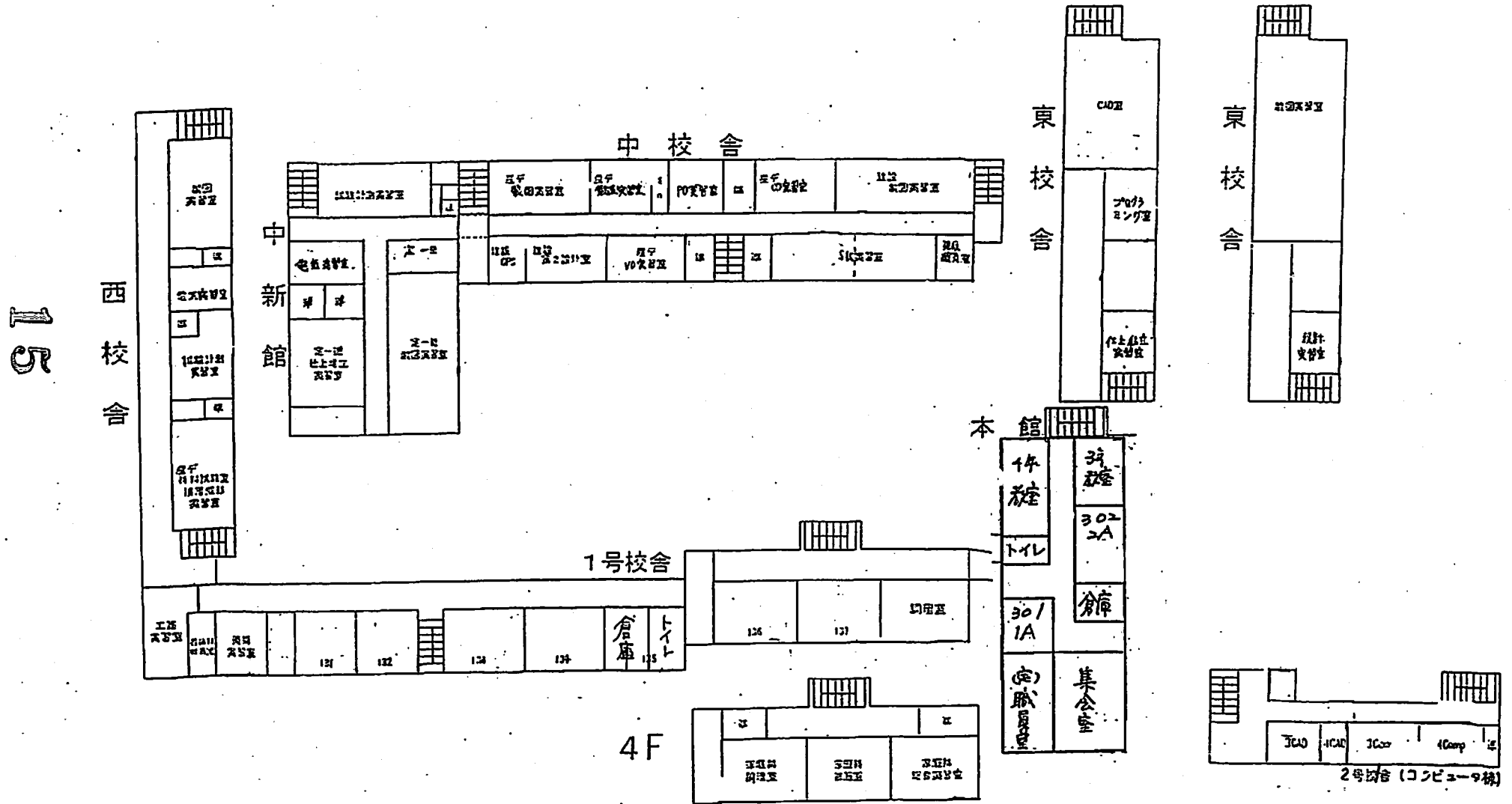
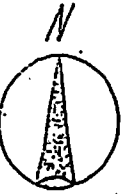
伏見工業高等学校平面図 2F



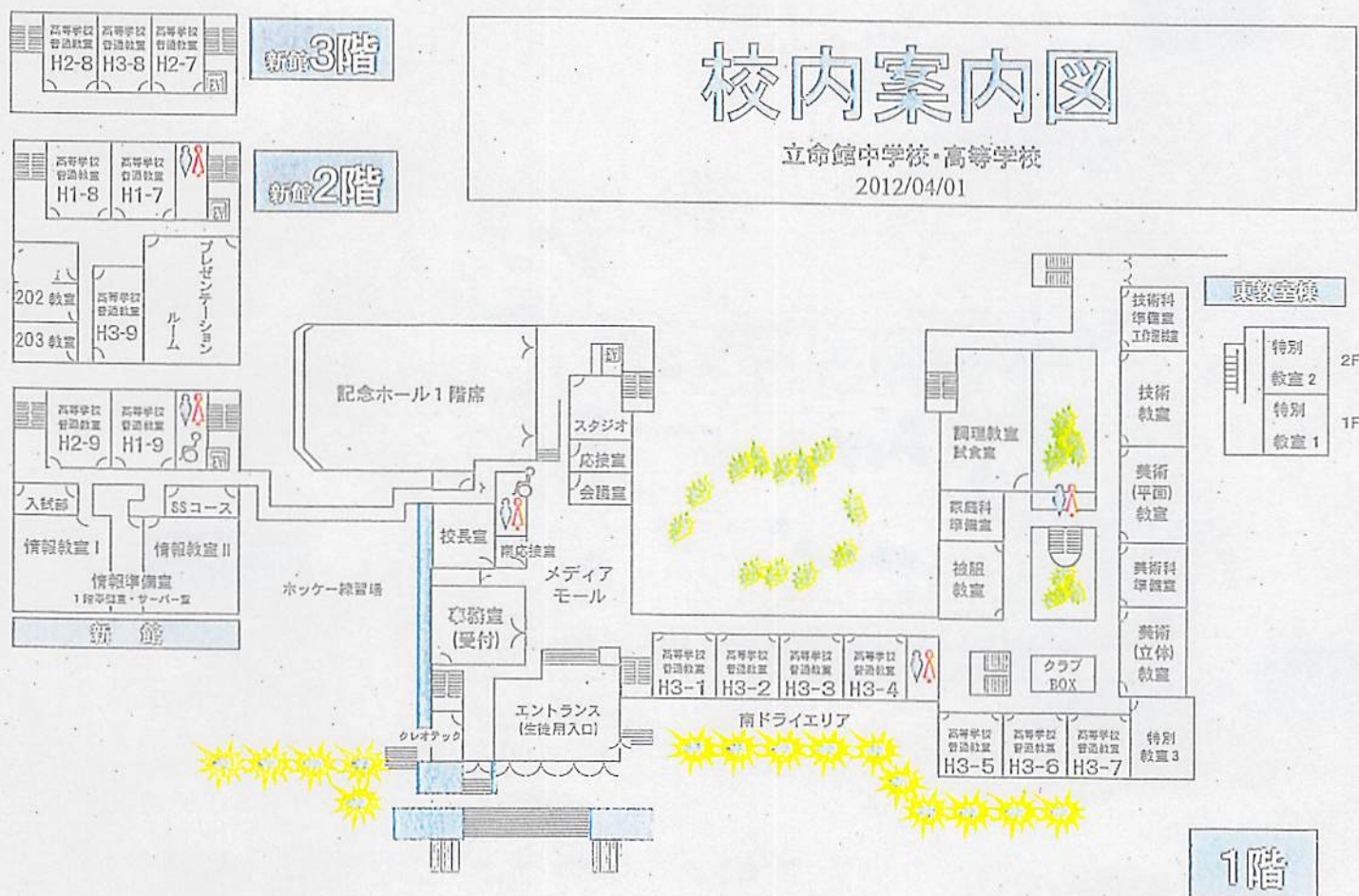
14

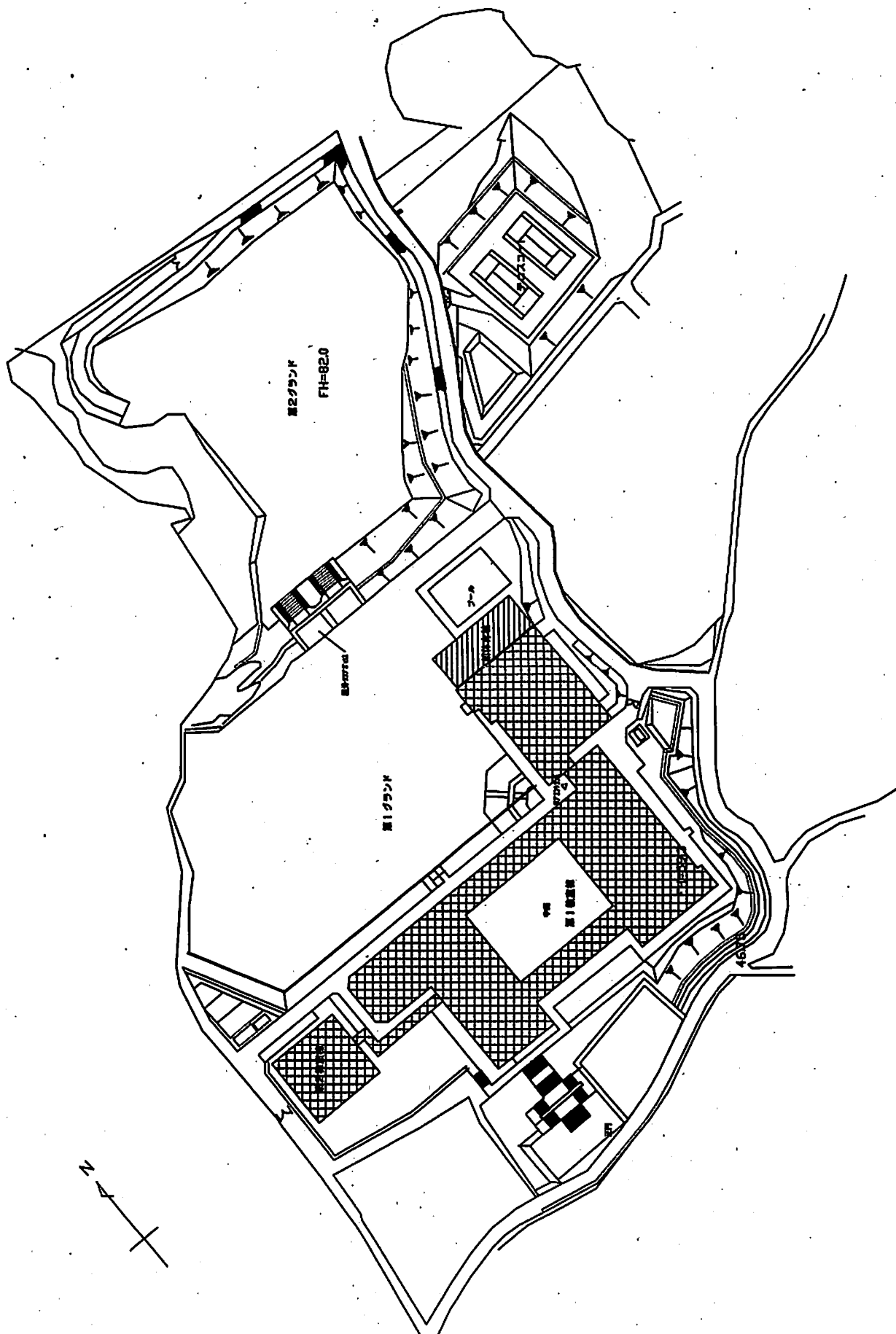


伏見工業高等学校平面図 3F



(3) 立命館中学・高等学校





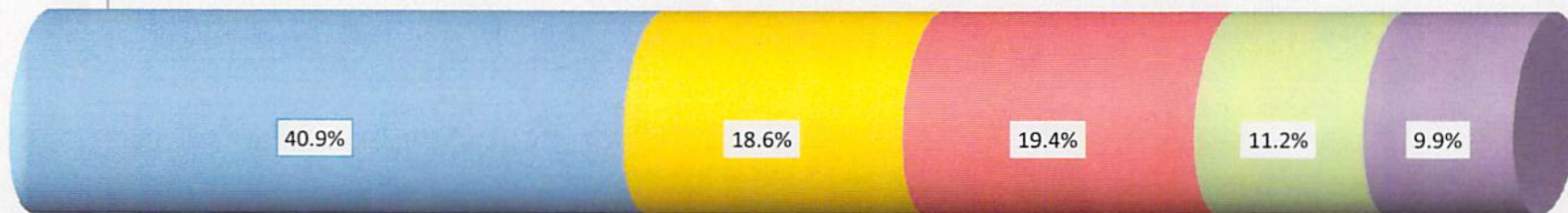
建物保有状況【市立工業高校・市立高校比較】(平成25年5月1日現在)

- 30年未満(昭和58年度以降に竣工)
- 30年以上40年未満(昭和48年度以降昭和57年度以前に竣工)
- 40年以上50年未満(昭和38年度以降昭和47年度以前に竣工)
- 50年以上60年未満(昭和28年度以降昭和37年度以前に竣工)
- 60年以上(昭和27年度以前に竣工)

市立工業高校の建物保有割合



市立高校全体の建物保有割合

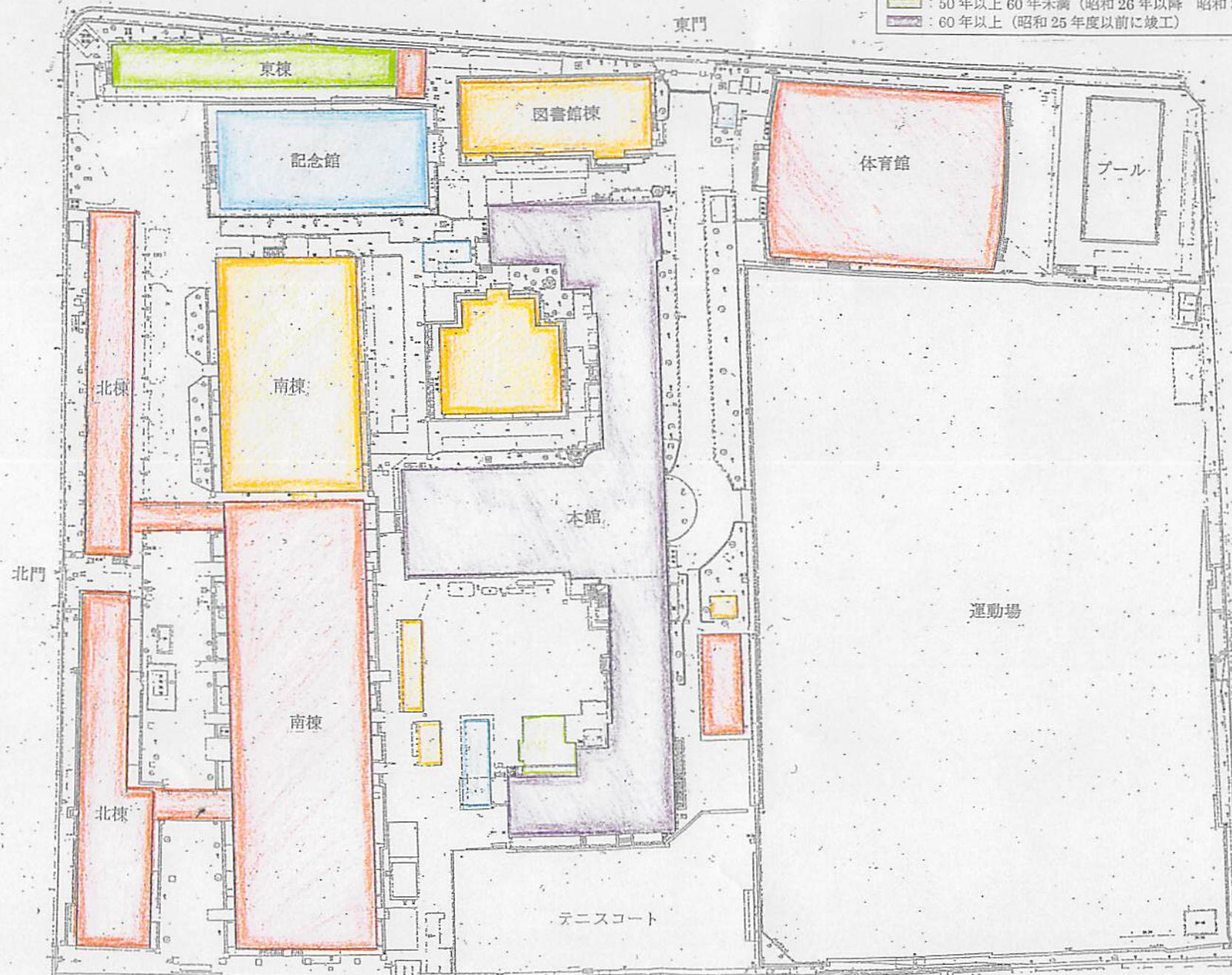


※ 上記数値については、全施設の延床面積において該当期間に建築された施設の延床面積が占める割合を示したものである。

縮尺：不明

【凡例】

- : 30年未満（昭和56年度以降に竣工）
- : 30年以上40年未満（昭和46年以降 昭和55年度以前に竣工）
- : 40年以上50年未満（昭和36年以降 昭和45年度以前に竣工）
- : 50年以上60年未満（昭和26年以降 昭和35年度以前に竣工）
- : 60年以上（昭和25年度以前に竣工）

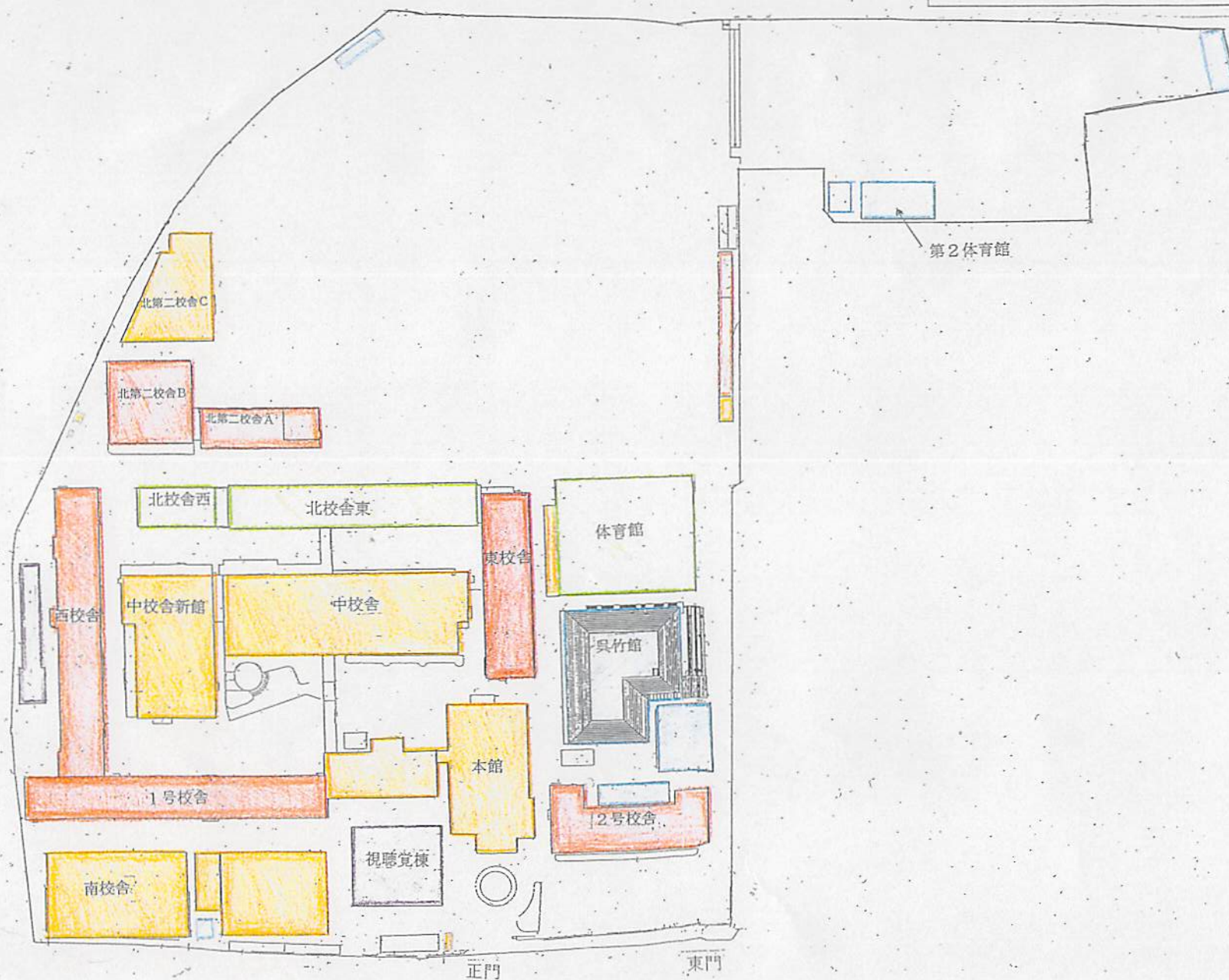


京都市立伏見工業高校における建物保有状況【現況平面図】(平成23年4月1日現在)

縮尺：不明

【凡例】

- : 30年未満 (昭和56年度以降に竣工)
- : 30年以上40年未満 (昭和46年以降 昭和55年度以前に竣工)
- : 40年以上50年未満 (昭和36年以降 昭和45年度以前に竣工)
- : 50年以上60年未満 (昭和26年以降 昭和35年度以前に竣工)
- : 60年以上 (昭和25年度以前に竣工)



学校名	棟用途	棟		年号	建築年次	構造	階数	面積(m ²)	耐震基準	診断結果	備考
		番号	枝							Is値	
洛陽工高	北棟	1	1	昭和	42	R	3	1425	旧基準	0.32	未改修
		1	2	昭和	41	R	3	402	旧基準	0.32	未改修
		2	1	昭和	38	R	3	239	旧基準	0.53	未改修
		2	2	昭和	37	R	3	399	旧基準	0.53	未改修
		2	3	昭和	39	R	3	317	旧基準	0.53	未改修
		2	4	昭和	40	R	3	390	旧基準	0.53	未改修
	南棟	3	1	昭和	43	R	3	1817	旧基準	0.37	未改修
		3	2	昭和	46	R	3	1170	旧基準	0.35	未改修
		3	3	昭和	45	R	3	2089	旧基準	0.35	未改修
		3	4	昭和	48	R	3	2726	旧基準	0.48	未改修
	東棟	22	1	昭和	33	R	3	145	旧基準	0.36	未改修
		22	2	昭和	34	R	3	372	旧基準	0.36	未改修
		22	3	昭和	35	R	3	433	旧基準	0.36	未改修
		22	4	昭和	36	R	3	259	旧基準	0.42	未改修
		22	5	昭和	37	R	3	178	旧基準	0.42	未改修
	本館	9	1	昭和	9	R	3	6608	旧基準	0.19	未改修
	本館講堂	9	2	昭和	9	R	3	432	旧基準	0.42	未改修
	図書館棟	25	0	昭和	54	R	3	967	旧基準	0.97	補強不要
	記念館	30	1	昭和	62	R	3	950	新基準	-	-
	体育館	21	0	昭和	40	S	2	1358	旧基準	0.7	補強不要
伏見工高	本館	33	0	昭和	51	R	3	1900	旧基準	0.33	未改修
	1号校舎	11	1	昭和	40	R	3	1065	旧基準	0.25	未改修
		11	2	昭和	41	R	3	1198	旧基準	0.25	未改修
		11	3	昭和	49	R	4	1194	旧基準	0.53	未改修
		22	0	昭和	39	R	3	1480	旧基準	0.39	未改修
	2号校舎	22	0	昭和	39	R	3	1480	旧基準	0.39	未改修
	北校舎西	4	0	昭和	34	R	2	405	旧基準	0.5	未改修
	北校舎東	5	1	昭和	31	R	2	176	旧基準	0.43	未改修
		5	2	昭和	33	R	2	176	旧基準	0.43	未改修
		5	3	昭和	32	R	2	475	旧基準	0.43	未改修
		5	4	昭和	30	R	2	343	旧基準	0.43	未改修
	北第二校舎A	2	0	昭和	41	R	4	761	旧基準	0.32	未改修
	北第二校舎B	1	0	昭和	41	R	1	398	旧基準	0.2	未改修
	北第二校舎C	30	0	昭和	49	R	1	237	旧基準	1.27	補強不要
	中校舎	23	0	昭和	47	R	3	1915	旧基準	0.5	未改修
		23	2	昭和	49	R	3	1621	旧基準	0.5	未改修
	中校舎新館	32	0	昭和	50	R	3	2258	旧基準	0.47	未改修
	南校舎	37	0	昭和	55	R	2	1222	旧基準	1.02	補強不要
	西校舎	3	1	昭和	38	R	3	372	旧基準	0.52	未改修
		3	2	昭和	39	R	3	527	旧基準	0.52	未改修
		3	3	昭和	40	R	3	1300	旧基準	0.52	未改修
	東校舎	6	0	昭和	44	R	4	1916	旧基準	0.25	未改修
	視聴覚棟	14	0	昭和	10	R	2	436	旧基準	0.14	未改修
	体育館	18	0	昭和	33	R	1	1039	旧基準	0.7	補強不要
	第2体育館	48	0	平成	12	S	2	296	新基準	-	-
	特別教室棟	55	0	平成	21	R	4	3043	新基準	-	-

(参考) 用語の説明

○ [構造] R : 鉄筋コンクリート造 S : 鉄骨造

○ [耐震基準]

新基準・ : 建築基準法が改正された昭和 56 年 6 月 1 日以降に建てられた建物の区分です
(現在の耐震基準に基づく建物で、耐震診断は不要)。

旧基準 : 昭和 56 年 5 月 31 日以前に建てられた建物の区分です (耐震診断が必要)。

- 診断結果 : 診断の方法は、すべて第2次診断であり、その結果である I_s 値を記載しています。
- I_s 値（構造耐震指標） : 耐震診断により、建物の耐震性能を示す指標で、 I_s 値 0.6 以上で耐震性能を満たすとされていますが、文部科学省は学校では 0.7 以上に補強するよう求めています。
 I_s 値 0.3 未満は大規模な地震（一般的に震度 6 強程度）により倒壊の危険性が高い建物とされています。
- 補強不要 : 診断の結果、耐震性がある ($0.7 \leq I_s$ 値) とされたものです。
- 未改修 : 統合や改築等が計画されており、耐震補強を実施していないものです。